

三七〇四番

もみち葉はの 散ちらふ山やま辺へゆ 漕こぐ舟ふねの にほひに
めでて 出いでて来きにけり

三七〇五番

竹たかし敷きの 玉たま藻もなびかし 漕こぎ出でなむ 君きみがみ舟ふねを
何時いっとか待またむ

三七〇六番

玉たま敷しける 清きよき渚なぎさを 潮しほ満みてば 飽あかず我われ行ゆく
帰かへるさに見みむ

三七〇七番

秋山あきやまの 黄葉もみちをかざし 我あが居をれば 浦潮うらしほ満みち来く
いまだ飽あかなくに